

8 月 定 例 教 育 委 員 会  
会 議 録

1. 招集年月日 令和7年8月19日（火）
2. 招集の場所 海田町役場
3. 開会（開議）令和7年8月19日（火） 9時30分宣告
4. 出席者  
教育長 森山 真文 委員 林 孝 委員 米丸 禎宏  
委員 大野 美恵子 委員 竹岡 美佳
5. 説明のため出席した者の職氏名  
教育次長 新藤 正敏 学校教育課長 立田 春美  
教育指導監 高木 和希 主幹 結城 和夏  
生涯学習課長 下野 武士
6. 職務のため出席した者の職氏名  
主幹 安田 昂祐
7. 議事日程
  - 第1 会議録署名者の指名について 米丸委員
  - 第2 議 案第16号 令和8年度使用特別支援学級用教科用図書  
の採択について
  - 第3 議 案第17号 令和7年9月議会補正予算案について
  - 第4 報告協議第31号 令和7年度全国学力・学習状況調査の結果  
について

第5 報告協議第32号 生徒指導上の諸課題について

第6 報告協議第33号 各行事の開催及び結果等について

## 8. 議事の内容

9：30開始

○教育長（森山）

皆様おそろいでございますので、始めさせていただきます。

それでは8月教育委員会会議定例会を始めます。

会議録の署名は、米丸委員にお願いします。

本日の議事日程は、皆様のお手元に配布しておりますとおりでございますが、議案第16号及び議案第17号は、非公開としたいと思います。

非公開とする理由ですが、「議案第16号 令和8年度使用特別支援学級用教科用図書採択について」は、生徒の個人情報が含まれるためでございます。

次に、「議案第17号 令和7年9月議会補正予算案について」は、検討中の予算案に関することであるためでございます。

議案第16号及び第17号を非公開とすることに、御異議ございませんか。

（全委員から「よし。」の声あり）

異議なしと認め、議案第16号及び第17号は、非公開と決定しました。

なお、議案第16号については、資料を回収させていただきますので、御了承ください。

それでは議事に入ります。

(報告協議第31号)

報告協議第31号「令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について」を議題といたします。

事務局から説明をお願いします。

○主幹（結城）

報告協議第31号「令和7年度全国学力学習状況調査の結果について」報告いたします。座って失礼いたします。

本調査の結果については、国や県の平均正答率が先日公表されましたので、併せて報告いたします。

まず、資料の5ページをご覧ください。

海田町の平均正答率は、小学校国語71%、算数61%、理科66%、中学校国語55%、数学55%、理科は平均IRTスコアの値が524となっております。

IRTスコアとは、テストの各項目への解答パターンから受験者一人一人の能力と問題ごとの困難さや識別力を測定したものです。

小学校に関しては全ての教科において国と県の平均を上回っています。  
中学校は国語の平均が広島県の平均と同じになっていますがその他は  
全て、国と県の平均を上回っています。

資料の6ページをご覧ください。

23市町村別順位を表しております。

網掛けの部分が海田町となっており、各教科の表の中で太くなっている  
線が平均点になります。

各教科の課題について問題を見ていただきながら今回の全国学力テスト  
について説明させていただきます。

小学校国語については「目的や意図に応じて問題、文章を選択し、文章  
と図表を結び付けて必要な情報を見つけること」に課題がありました。

本日配付させていただきました資料をご覧ください。

小学校国語の、①の1は「目的や意図に応じて日常生活の中から話  
題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容  
を検討することができるかどうか」を見る問題です。

正答率が52.9%となっております。

③の3の(1)は「目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどし  
て必要な情報を見つけることができるか」どうかを見る問題です。

成功率が44.6%となっております。

文章の中から必要な情報を取捨選択したり、整理したり、再構築した

りすることを、日ごろから授業の中で取り入れていく必要があります。また必要な情報は目的に応じて変わるため、読む目的を明確にして読む習慣をつけていくことも大切です。

しかし、③の(2)は、(1)同様「目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうか」を見る問題であるにもかかわらず、正答率が70.2%となっております。全国では56.3%、県では61.9%となっており、国より約14%高くなっております。

これは、5・6年の思考力、判断力、表現力の書くことに区分されます。

資料を基に目的に応じて必要な情報を選択して記述する必要がある、日頃の授業の中で書くことを大切に継続的にやってきた成果であると思えます。

中学校国語においては「自分の考えが伝わる文章となるように根拠を明確にして書くこと」、「読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて文章を整えること」に課題が見られました。

資料をご覧ください。

中学校国語の③の4は、文書の展開や構成について根拠を明確にして考えることができるかどうかを見る問題です。

正答率が21.2%となっております。

④の2は読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確

かめて文章を整えることができるかどうかを見る問題です。

正答率は 29.7%となっております。

話や文章の構成や展開について考えることを日ごろから授業の中でしていく必要があります。

また、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書くことを国語だけでなく様々な書く活動の中で習慣づけていく必要があります。

問題は戻るのですが、②の4は、「国より4%県より2%上回ってはいましたが資料や機器を用いて自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうか」を見る問題になっています。

国や県よりは高かったものの、やはりこれも27.8%と低い正答率になっており、中学校においては「書くこと」に課題があるということがわかりました。

この問題が、「資料や機器を用いて自分の考えをわかりやすく伝わるように表現をどのように工夫するか」という問題です。

こちらの問題が県や国よりは、正答率は高かったものの、27.8%と低い正答率になっていまして、先ほど話をさせていただいた問題とも合わせて「書くこと」について中学校については課題があるということがわかりました。

#### ○教育長（森山）

算数の報告にいきましょう。

## ○主幹（結城）

それでは次に算数・数学について説明させていただきます。

小学校算数については、「倍を使ってとらえなおして表現すること」や「目的に応じて必要なグラフを選択し、考察したことを記述すること」に課題がありました。

資料の小学校算数の1ページをご覧ください。

これが大元の問題になっております。

この情報から、考えていく問題です。

(2) をご覧ください。

(2) は、小学校算数の3ページになります。

先ほど見ていただいた資料を元に、「目的に応じて適切なグラフを選択して、出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見る」というのがこの問題になります。

正答率が35.4%となっております。

次に④の(4)をご覧くださいと思います。

この問題は「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が、「増量前の量」の何倍になっているかを表すというものを見る問題です。

10%増量なので、元の量の、「1.1倍」と書かなければいけないのですが、この10%の方だけ見て「0.1」と書いたり、そもそも10だけを見て「10」と書いたりということで、間違いやすい問題にはなっています。

ただ正答率が 39.1%ということで、やはり「『倍の見方』について、苦手意識があるのかな」というのを感じています。

先ほど出てきました、①の2の問題ですが「目的に応じて適切な資料を選ぶこと」が、国語とも同様の課題となっており、これは全教科を通じて取り組んでいく必要があると思います。

また今見ていただいた「倍の見方」に関しては毎年課題になる問題です。

中学校の関数につながる大切な見方・考え方であるので、苦手意識を持つのではなく児童にこの見方・考え方の面白さを感じて欲しいと思っています。

そこで、5年生の倍の見方に関わる授業に関して、どのような授業をしているのか、小学校に板書の写真で報告してもらおうこととしています。

次に、中学校数学について説明させていただきます。

中学校数学に関しては統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することに課題がありました。

また成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を説明することにも課題がありました。

資料をご覧ください。

②の(2)です。

この問題は「式の意味を読み、取り成り立つ事柄を見だし、数学的

な表現を用いて説明することができるかどうか」を見る問題です。

正答率が 26.4%になっています。

中学校数学 17 ページの ㉑ が大元の問題で、次のページに (2) があります。

これは統合的・発展的に考えて、先ほどと、条件を変えた場合に、どのように証明していけるかということを考え、「証明を評価・改善することができるかどうか」を見る問題です。

こちらの正答率が 35.8%になっています。

どちらの問題も、理由を説明する証明するなどの根拠をもとに記述するところに課題があるため、これは国語の課題と重なっています。

各教科担当で連携し様々な活動の中で「根拠をもとに記述する習慣」をつけていく必要があると考えています。

ただ中学校の数学に関してはどの問題においても、国や県の平均を上回るか同程度の正答率となっていました。

これは継続的に定期テストの作成内容や結果分析を、学校と連携して、計画的に生徒の学力向上に取り組んできた成果であると考えられます。このことを小学校算数でも参考にして取り組んでいきたいと考えています。

最後に理科について話をさせていただきます。

小学校理科の 7 ページをご覧ください。

小学校理科では「エネルギー」を柱とする領域に課題がありました。

資料をご覧ください。

②の(1)の問題です。

これは「身の回りの物質に、電気を通したり、磁石を引きつけたりする性質があるかどうか」の理解ができているかを見る問題です。

正答率が19.3%となっており、国や県の数値を上回っていたものの、大変低い数値となっておりました。

また、続きまして(2)の問題ですが、これは電気の回路の作り方について、「実験の方法を発想し、表現することができるかどうか」を見る問題です。

正答率は46.9%となっております。

技術的な知識を既存の知識と関係づけたり、活用したりする中で概念的に理解することができるよう学習活動を組む必要があります。

先ほどの算数の増量の時にも出てきたのですが、生活の中でいろいろなことを体験するということに関係する問題が、理科の中では弱いのかなと考えています。

次に中学校理科の問題です。

中学校の理科は、パソコンを使ってオンラインで実施したために、少し形式が違ってきます。

動画が出てきてその中から選ぶというような問題を取り上げています。

この問題は、「観察した水の中の生物が呼吸を行うか否か」について、これまで理科で学習したことを活用して、生命を維持する働きに関する

る知識を概念として身につけるということに課題がありました。

この資料は、①の(4)なのですが、「生物の1から4までの動画を見て、呼吸を行う生物を選択する」という問題です。

正答率は29.5%となっております。

中学校でも小学校と同じように「事実的な知識を既存の知識と関係づけたり、活用したりする中で、概念的に理解することができるような学習活動」を送る必要があると考えられます。

今後に向けてですが、改善計画の作成を各学校に依頼しています。

まず問題の趣旨や結果の見方を先生方が理解して、児童・生徒に説き方や考え方を解釈していく。

児童・生徒の課題をもとに、教材研究をしてその指導が有効であるか授業で検証していくということが児童・生徒の学力向上につながると考えております。

今回の結果を分析して改善方法を考え、それを交流する場を設けることにより、全町挙げて教員の指導力向上につなげ、日々の指導の改善・充実に役立てていきたいと思っています。

以上です。

○教育長（森山）

資料的に量がありましたが、どうですか。

内容見るとわかるのですが、知識・理解はそんなに難しい問題ではありません。

ただ問われ方が理解しにくい、書けない、読み取れないということがあります。

学校では授業の中で基礎的な知識を教えているが、子どもたちがそれを問われる形まで加工できないという状態ですね。

また、中学校についてはI R Tスコアといって、500点を基準にして、タブレットを使って今年初めて実施しました。

タブレットを使っているので、全員が一斉に実施したものではないですよ。

#### ○主幹（結城）

学校ごとには一斉に実施していますが、全町で一斉に実施すると何か不具合が起きる可能性があるから時間とか日をずらして実施しています。

#### ○教育長（森山）

ということは、問題が違います。

なので、同じ問題に対して正答率ではなくて、「同質の問題」とされるものに対して、アプローチをして、回答がどうだったかのかいことでスコアを算出しています。

500が標準とされていて、国が503ですかね。

広島県が495。

うちが524ですけど、公表値としては515から524という幅のある数

字で示されています。

実験の回数だったり，系統性・継続性だったりというところが理科はあって，先ほど出てきた，実体験・実生活とどれだけ結びつけるかというところの感覚が，子どもたちが磨ぎ済まされてくると，理科の学力に繋がるっていう実態がある。

それを映像などでとらえても，同じ結果が出るということです。

小学校の理科についてはかなり早くから取り組んでくれていましたか。どんな取り組みしていましたかね。

#### ○教育指導監（高木）

はい。デジタル教材を活用していました。

デジタルを使うことによって，今話題に出ていた実験なども動画で見れたり，結構イメージしたりしながら，学習ができたところは大きな成果ではないかと思います。

本当に子どものつまずきをしっかり把握しながら丁寧に取り組んでいました。

理科は専科が多いですので，系統的に指導をされていた成果と思っています。

#### ○教育長（森山）

理科については3年に1度なので，毎年系統的に見ていくってことはできないですが，3年ぶりに受けてみて，悪くない結果でした。

逆に小学校の算数・国語，それから中学校の国語には課題がみられま

す。

先ほど言ったように「書けない」，「読めない」という弱さがあるので，そこは，知識・理解というよりも「問い方に対してどう答えていくか」ということに慣れるということも含めて，取り組んでいかないといけない。

ただ，授業でどこまで時間が割けるかというところは，見ていると厳しいのかなというのが概ねの感想ですね。

「これ本当に算数・数学の問題だろうか」というぐらい，文章が書いてあるので，数学・算数なんかもですね。かなり難しい。

何かご感想とかあれば，

#### ○教育委員（林）

1つ思ったのは生活実感ですよ。

例えば，この小学校の算数の4ページのところにある，ブロッコリーの出荷の割合と出荷量と，どちらを見たら，2013年と2023年を比べることができるのだろうかみたいな。

何が問われているのかに対して的確な図を見ないといけない。

初めパッと見たとき，「どういう問題だ」と思っていたのですが。

例えばグラフ3とグラフ2を入れ替えて示していたら，多分，生徒わかっていますね。正答率は，この17%と16%で比べるから，多分間違いやすい。子どもの特性として，3択問題やると一番に答えを持てきますからね。

そういうことを考えたときに、「何に着目するのか」というのをきち  
っと、考えさせる。小学校算数の 22 ページは、「10%増量」と聞いて  
いますが、ひっかかるよね、絶対。どんな誤答が多かったのですか。

○主幹（結城）

1 番だったと思います。

○教育長（森山）

生活実感ですね。洗剤詰め替えたことがないとか、そういう感じでは  
しょうね。

○教育委員（林）

計算させなきゃならない。どっちが得かって。スーパー行って買い物  
させないといけないですな。

○教育委員（大野）

買い物は、親が行きますからね。

○教育長（森山）

何かご感想があればお願いします。

○教育委員（竹岡）

先ほど教育長さんがおっしゃられた、言葉が残っているのですが、そ  
の問題が何を言っているのかを読み取らなくちゃいけない。

何を問われているかがわかりやすい形で、問題が提示されて、受け身  
のような形であれば、ポンと答えは出るのだけでも、何を言っている

のかを、まずこちらが前のめりで考えなきゃいけないっていうところがすごく大事だと思いました。

それは国語力なのか算数・数学力なのかという話も出たのですが、最終的にはそのコミュニケーション力のような、「相手が何を言っているのだろう」というのを前のめりで、受け取ろうとする、考えようとする、そういう姿勢が、何かこう育まれているのかなと思いました。こういう試験のとき、そういう姿勢っていうのが大切になってくると考えました。

これ受け身で「はいはい。ABC」と、そういうのではなく、「何を言っているのだろう」「何を相手が伝えようとしているのだろう」というのを、自分から、前のめりで受け取りに行こうっていう、そういうコミュニケーション力のところなのかなと思いました。

なかなか「国語の授業の何とかで」とか「算数の授業の何とかで」だけではなくて、普段のコミュニケーション力が大切になってくる。

そうすると学校だけではなくて家庭とか地域という、そういうところで子どもたちの相手の意思とか意図とかを取り交わしたいっていう気持ちを育てあげることっていうのは、大切な1つなのかなとちょっとと思いました。

#### ○教育委員（大野）

同じ考えなのですけれども。

この問題を読ましていただいて、「こういう問題にした意図は何だろ

う」というふうに考えたのです。

「どういう子どもに育て欲しいのか」という思いがあるのだと思うのです。20年前に、何か強くありましたよね。ピサがありましたね。あのときに、すごく苦い体験をしたのですが。

「こんな問題が出るんだ。じゃあ.ね、今までと全然違う、対比できないんだけど」と思いました。じゃあ何が変わっていくのだろうという視点で分析してくださいと、思ったのですよね。

今、竹岡委員さんが、「前のめりでのコミュニケーション能力、それを問うているんじゃないかな」と言われたのですが、私もそう思いました。

何か今までと違う書きぶりですよ。それを先生方がどの程度分析されるかというところが、期待したいなと思います。

海田町の校長先生だけじゃなく、教務主任の先生だけじゃなく、研究主任の先生だけじゃなく、新しい先生も、一緒になって、この研修をしたら、多分20年前と同じような、問題を感じました。

この変化が起きるような気がします。

だからさっき、学校だけでなく、家庭も社会もと言われましたけれど、私も同じように思っています。学校だけが変わっても何もならないし。家庭の格差がすごく開いていること、親の意識が全然違います。

20年前とは違うし、となると、こういう問題がこれから出続けるということになれば、「どういう姿を求められているのか」ということ

を考えてみる1つのきっかけになるといいなと思いました。

○教育委員（米丸）

デジタルでパッと出て見ているから、読むことができないのかなと思います。読むことができないのに、答えをすぐ出そうとするから、中身を見ていないとか、あれですよ。

だから、家庭にしても読書というか、スマホで漫画などを見るようになってから、本当に最後まで目で追ってないというのが続いているので、逆にひどくなっていくのではないかというのは懸念していますね。

○教育委員（大野）

すいません。私も同じ懸念しております。図書館の役割が大事になってくると思います。

○教育長（森山）

大事なんでしょうね。スマホのSNSのやりとりで、感情を例えば絵で示して終わるとか。

だから、読み解いて理解して次に進むっていう作業が多分、時間を短縮するがゆえに、抜けている部分というのは生活の中にいっぱいあるんでしょうね。なんかそこら辺も影響しているんでしょうね。

学校へは、この結果を受けて、先ほどもあったように改善の方向でということで「読むこと・書くこと」の徹底、それから、会話をきちっとすることに対しての、音読など、耳から聞いて、感じたことを伝え

る活動を入れていかないといけないという話はしています。

それを実際、「現場の先生がどこまで子どもたちにできるか」というところが勝負で、ここで幾らこう考えて課題がわかっても、解釈していく、教職員ができなければ学力は伸びないので、そこは継続して、取り組んでいこうと考えています。

概ね学力的には安定はしているのですが、年によって差異が出てくるということは、何らか課題があって、それが社会の移り変わりについていけない部分が一部出てきているところもあると思うので、指標にして、今後も結果を追っかけながら、来年度に向けて進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○教育委員（大野）

徹底するっていうところが大切だと思います。

○教育長（森山）

そうですね。しっかり頑張っていこうと思います。はい。

よろしく申し上げます。

次の議題に行かせていただきたいと思います。

報告協議第 33 号、各行事の開催及び結果等について、を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○教育次長（新藤）

報告協議第 33 号、各行事の開催及び結果等について教育委員会に報告するものでございます。

こちらにつきましては各課長から説明いたします。

○教育長（森山）

差し替えのプリントがありますので、そちらの方見てください。

○学校教育課長（立田）

学校教育課分の説明をさせていただきます。座って説明します。

学校教育課分につきましては先ほど教育長が言いました、差し替えのプリントをご覧ください。

まず8月の行事についてですが、1日の海田町授業力向上研修には、ご参加いただきましてありがとうございます。21日、今週ですが、令和7年度中国五県町村教育長研究大会、鳥取県で開催予定でございまして教育長の方が参加予定でございます。

9月の行事についてです。1日から海田町の定例会が行われる予定でございます。それから11日に教育委員会会議を海田南小学校で、開催を予定しております。ここには9時30分とありますが、9時からの開始にさせていただきます。その後役場の方へ移動していただいて前回と同様に総合教育会議にご参加いただければと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

時間の変更をまた追って通知は来月分させていただきますが、よろしく願います。

学校教育課分は以上です。

○生涯学習課長（下野）

それでは、続きまして生涯学習課の助成を説明させていただきます。

座って説明させていただきます。

まず、8月の行事予定ですが、放課後子ども教室、夏休みラクラク学習会を引き続き8月29日まで実施しております。こちらの方は夏休み中に14日間の開催予定で、今現在、10日間実施しておりますが、小学校延べ254人、中学生5人、トータルで259名の方が、生徒が参加していただいております。

続きまして、20日、歴史講演会「日本の妖怪文化～語り継がれたものたち～」ということで、ふるさと館で三次もののけミュージアムの館長の上田様にご講演をしていただく予定となっております。

9月の行事予定でございます。9月15日月曜日、広島中央地域連携中枢都市圏連携事業としまして、「地域の祭りがもっと面白くなる歴史文化を活かした新たなまちづくりシンポジウム」が呉市役所の新日本造機ホールで開催されます。本町からは、海田町の無形文化財であります、火ともしまつりの紹介をさせていただこうと考えております。

以上でございます。

○教育長（森山）

先ほどの説明について何かご質問等がございますか。

よろしいでしょうか。

総合教育会議がまたございますので、ご協力よろしく申し上げます。

以上で教育委員会会議を終了します。

11:50 終了